

第3章 評価の結果に対する対応方針

分科会の評価結果を受けて、国土技術政策総合研究所では以下のように対応する。

■令和6年度 第4回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）

・氾濫シナリオ別ハザード情報図に基づく減災対策検討手法の研究

（終了時評価）

評価結果を踏まえ、地域で留意すべきハザードや氾濫シナリオの検討プロセスそのものの重要性を明確にし、その意義を丁寧に記した上で、関係する諸機関の実状を踏まえた実効性の高い社会実装を目指し、手引きやそれに類する資料・情報を作成・整理して参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・土砂・洪水氾濫発生時の土砂到達範囲・堆積深を高精度に予測するための計算モデルの開発

（終了時評価）

評価結果を踏まえ、豪雨の発生事例が増えている現状において、計算モデルの有効性を高めるためにも、モデルの精緻化・高度化に向けて継続的に知見を積み上げ、研究成果について周知して参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・下水道を核とした資源循環システムの広域化・共同化に関する研究

（終了時評価）

評価結果を踏まえ、評価方法において自治体ごとに重視する項目の違いについて考慮した資料を提示できるよう、検討を進めて参りたい。また、下水処理場への生ごみの受け入れにおける費用負担増やリスク発生についても、今後の評価ツールの使用における知見集積と併せて、検討を進めて参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

■令和6年度 第5回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）

・国際海上コンテナ背後輸送の効率化方策に関する研究

（終了時評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・内陸デポの採算性を確保するために配慮すべき事項や、企業間のマッチングを推進するための関係者間の情報収集・共有のあり方などについて検討して参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

■令和6年度 第6回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）

・既存建築物における屋根ふき材の耐風診断・補強技術評価に関する研究（終了時評価）

評価結果を踏まえ、設計者や施工者に加えて建築主にも分かりやすい形で、改修コストの情報を含む耐風補強効果の提示方法等について、検討を進めて参りたい。また、マニュアル(案)のさらなる普及のため、屋根のリノベーションや防水工事といった機会に合わせて耐風補強も図っていただくための仕組みについて、検討を進めて参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・都市関連データのオープン化と利活用の推進に関する研究（終了時評価）

評価結果を踏まえ、市街地変化の評価で必要とされる建築確認データや固定資産税データなどの多様なデータとの連携手法と課題の整理を行いつつ、3D都市モデルの普及に向けた検討を進めて参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

・浴槽レス浴室のバリアフリー基準に関する研究（終了時評価）

評価結果を踏まえ、研究成果の公表に際しては、断熱や暖房など身体に負担をかけずに入浴できる温熱環境のバリアフリー対策もあわせて行うことの重要性や、入浴の際の介助について得られた有効な知見を、広く共有できるような記載に努めて参りたい。また、既存住宅のバリアフリー改修においては、多額の費用をかけられない場合や、限られた浴室スペースのみでの改修とならざるを得ない場合があるなど、居住者事情にも留意した普及の方策を検討して参りたい。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、今後の研究を進めて参りたい。